

## 第2回三田市教育委員会点検・評価委員会 会議録

- 日 時：令和5年8月9日（水）9：30～10：43
- 場 所：三田市役所南分館6階 601AB会議室
- 出 席：吉田委員長、藤原委員、下中委員
- 事務局：浅野学校教育部長、外岡学校教育部参事（学校再編担当）、井上教育総務課長、久保教育総務課担当課長、上野学校再編課長、田中学校教育課長、市原教育支援課長、小山教育研修所長、廣瀬学校給食課長、下山文化スポーツ課長、神影健やか育成課長、藤田幼児教育振興課長、靱井教育総務課係長、井上教育総務課事務員
- 傍聴者：なし

1 開会

2 委員長あいさつ

3 確認事項

（1）議事録の確認

4 議事

（1）説明・質疑

（2）点検・評価委員の意見について

5 閉会あいさつ

6 閉会

**【第1回教育委員会点検・評価委員会議事録の確認】**

・修正指摘等なし。

**【基本施策9 事務局から説明後、質疑応答】**

委員長

・十分なお説明をいただきありがとうございました。

**【点検・評価委員の意見について】**

委員長

・令和4年度の点検・評価ですが、すでに令和5年度以降にアクションしているものは追加で説明していただくと参考になるのですが。

・三田市が独自に進めたい施策である給食のふるさと献立を実施しようと思えば予算がないとできません。例えば、三田牛のすき焼き献立などはとても人気がありましたが、現在はなくなっています。そういったことを実行するのは、財政的な補助が必要ではないでしょうか。ふるさとに関連した給食施策を持続的に実施していくことは困難なのではないでしょうか。

事務局

・昨年度、物価高騰もあり、三田市のめざす学校給食のあり方について、三田市学校給食運営協議会に諮問し、先般答申をいただきました。その中では、子どもが食べる基本的な食材は、受益者負担の給食費として保護者にご負担いただくことが妥当ですが、地産地消などふるさと意識を醸成する特別な費用については、市が負担することが望ましいとの答申をいただき、今後、その方向で予算化に向けて検討したいと思っています。

委員長

・ありがとうございました。安心しました。

委員

・情報リテラシーということが求められていますが、どのように正しい文献を探し、活用するのが課題です。先日高校生の発表を見ていたのですが、持ってきた資料を正しく探すことができていない生徒がいました。チャットGPTなどこれから自分自身で考えて、選んでいくことが必要となる状況であるので、専門的な知識をもった職員である図書館司書のサポートが必要となると考えます。是非検討していただきたいです。

委員長

・学校教育の分野ですね。図書館の内容も関連しますね。

委員

・そうですね。図書館とも連携が必要ですが、できれば学校司書の活躍についてお願いします。

事務局

・子どもたちの読書活動を推進し、読書環境を向上していくために、今後も学校司書の配置を進めていくことが大切と考えています。まずは、在籍している学校司書へのしっかりとしたサポート、研修体制を構築することが大事

であると考えています。

・情報化社会の中で生きる子どもたちにとっては、情報活用能力を身に付けるということは非常に重要なことと考えています。学校司書と連携を図りながら、積極的に対応したいと考えております。

委員長

・図書館の調べる学習コンクールは大変応募も増えているのが三田の特徴であると思います。

事務局

・調べる学習教室として年間5回開催しています。小学生・中学生のための調べる学習教室2回、子どもと大人のための調べる学習教室1回、調べる学習レポート相談会を2回開催し、10人程度が参加されています。これからも周知を行い多くの方に参加いただきたいと考えています。コンクールの応募については、令和3年度と比べて200人ほど増加しています。

委員長

・母数が増加することにより文科省へ上げる応募作品の数も増えます。これまで三田市立図書館は良い成績をもらっているので続けて積極的に取り組んでいただきたいと考えます。

委員長

・こうみん未来塾の成果をふるさと学習など学校のカリキュラムの中に位置付けていけないでしょうか。学校の総合的な学習に任されているのでしょうか。

事務局

・毎年、情報提供を学校に行い、活用を促しています。なお、こうみん未来塾は学校を含めて、地域、企業など、様々な団体と協力して学びを提供しています。その中で学校の授業に取り込んでいただけるととても良いことだと考えています。利活用しやすい情報の伝え方に注力していきたいと思ひます。

委員長

・こうみん未来塾については、そのような方向で進んでいくと思ひます。沢山の子どもたちが興味を持てるということはありがたいことだと思ひます。ただ、川本幸民（三田市の偉人）自身が何をしたのか、例えば、マッチを作ったなど川本幸民と直接関係する素材を取り上げ、学校の授業の中でどのように生かしていくのか、適切な学年に関連付けていければより良いと思ひます。三田では川本幸民の発明を題材に学ぶことを定着させていただきたい。  
・PDCA サイクルをより良く回して行って、来年度からでも取り組めるものから着手していただきたいと考えます。

委員

・授業にこうみん未来塾を取り入れていただきたいのですが、学校の先生に余裕がなく、利用したくても利用できていないと感じます。移動図書館も2ヶ月前からの予約ですが、先生方は2ヶ月後のことまで手が回らない（現状

でいっぱい) のではないのでしょうか。現場の先生方に「利用できますよ」と情報を提供しただけでは、活用につながらないのではないかと感じます。最初からこの部分については、このメニューが使えるというように示さないと難しいと思います。市から情報提供だけでなく、授業に生かせるアドバイスが必要だと考えます。

委員長

・PTA 活動について、何らかの策を考えていただきたいと思います。コミュニティ・スクールの基盤にも関わると思います。そのような点についていかがですか。

事務局

・PTA 活動が一番身近な学校を支援する団体であるということは十分理解しています。市教育委員会事務局としては学校長、会長や役員に PTA の意義を伝えております。ただし、PTA は任意団体でもあり、強制することはできないのも現状であり、保護者に強制的に加入していただくことはできませんが、保護者ができる範囲で協力していただけるよう学校としても依頼し続けております。学校教育課は連合 PTA の事務局であり、各単位 PTA への指導を行うものではありませんが、年間 2 回各 PTA 会長、副会長をお招きして、それぞれの好事例などの情報交換をしております。そのような活動を重ねて、保護者の方々に参加してもらえるように努力しているところです。

委員

・実感として PTA はいらないという保護者、役員は絶対にしたくないという保護者が増えてきています。しかし、PTA 活動として参加する保護者は子どもたちのために何かをしたいと考えている方も少なくありません。この乖離を埋める方策を考えていただければありがたいです。

・例えば、八景中学校ではミマモルメで欠席連絡などを行っており、電話対応の軽減につながっています。好事例として単位 PTA にも学校を通じて情報提供、アドバイスいただけることにより学校、保護者、PTA 活動の溝を埋めることができるのではないかと感じます。

事務局

・PTA や学校で一括加入していただいているミマモルメや LINE など各種通信手段を活用して、保護者により低負担で連絡できるように学校としても取り組んでおりますし、情報交換会でお知らせさせていただいております。

・PTA への加入・未加入は別にして、子どもたちのためにできることやその負担を軽減できる手法もあることを単位 PTA へお伝えさせていただいております。

・学校からは PTA 活動以外でも、各保護者が子どもたちのためにできることに協力してもらえるよう依頼しております。

・PTA を受ける前は負担感がありましたが、実際にやってみると、子どもた

委員

ちのために役立ったという実感がありました。やってみてはじめてわかることがあります。地域活動（自治会活動）なども同様ではないでしょうか。

- ・段取よく行動するということにつながっていないように思います。
- ・参加することにより、子どもは親についてくる。それにより地域内で横のつながりが広がる。地域ぐるみで横のつながりを作り、今後も知恵を出し合い、人と関わることの良さを子どもたちにも感じてもらうことで、成功体験を重ねていくことにより進んでいけるのではないかと思います。地域ぐるみで進めていくことが大切ではないかと考えています。

事務局

- ・ひとつ前の議論の中で、三田市の取り組みをカリキュラムに位置付けることが大切であるというご指摘をいただいたと考えます。既存のカリキュラムと地域素材をどのようにつないでいくのか、カリキュラムにどう位置付けるのか、どう関連を図っていくのかがひとつのヒントとなっていくと考えております。例えばこうみん未来塾であれば、校長会を通じてプログラムを情報提供し、そのプログラムが理科の授業のどういったところとつながっているかをお示しすることによって、先生方が選択し、利活用しやすいようサポートしていくという観点では健やか育成課と一緒に歩みを進めていくことができるのではないかと考えているところです。

- ・また、小中一貫教育という考えのもと、今年度から各中学校校区内で9年間の期間の中で子どもたちを育てていくカリキュラム、地域素材を活用したカリキュラムを学校が作り上げようとしているところです。三田市としてモデルを示すことも大事と考えますが、まずは、こうした学校ごとの地域素材を活用したカリキュラム作りをサポートしていきたいと考えています。

委員長

- ・トイレの改修、大規模改修は進んでいるようですが、それ以外の校舎や設備の修繕についてはどのように進められていますか。

事務局

- ・大規模改修については長寿命化計画に基づいて、また学校再編の動きをみながら進めています。トイレの洋式化は基本的に大規模改修の中で進めています。それ以外にも令和4年度から少しずつではありますが順次実施しているところです。

- ・雨漏りなどの修繕・補修については、学校施設からの報告をもとに危険度合などと予算を鑑みて順次着手しているところです。

委員

- ・学校の再編に関する進捗状況についてご教示ください。

事務局

- ・上野台・八景中学校は、昨年度から引き続き候補地の選定について調査中です。

- ・弥生・富士小学校は地域協議会を立ち上げ、全体会を1回、部会を2回開

催し、今年8月末に3回目の部会を開催する予定としております。

- ・長坂・藍中学校は保護者の皆さまと年1回意見交換をさせていただいているという状況です。

- ・上野台・八景中学校区内の小学校は、中学校の状況を見ながら予定を立てていきたいと考えております。

委員

- ・幼稚園でも子どもの人数が激減していると感じています。その子たちが小学校に進学するときはどうなっているかということを考えたとき、小学校区の変更も可能なのでしょうか。ゆりのき台小学校区は子どもが多く、その一部を隣接しているけやき台小学校区やあかしあ台小学校区に変更したり、けやき台小学校区の一部を隣接しているすずかけ台小学校区の学校区に変更することは選択肢にあるのでしょうか。

事務局

- ・PTA や地域の活動について、学校区が基本単位となっており、それら活動の担い手としても学校区にお住いの方を想定しております。

- ・学校園あり方の基本方針を作成する際に、審議会を立ち上げ、自治会など地域から委員として参加、審議していただいております。地域の単位と学校区の単位が一致していることが望ましいという提言をいただいております。

- ・例えば、現在ゆりのき台小学校区であるゆりのき台1丁目を隣接している小学校区に変更したとして、その子どもたちが大人になったときにどのようになるのかを想像したとき、地域活動がゆりのき台自治会となり、学校区と地域活動の場が異なることが想像されます。

- ・10年を超えるような長期間にわたって子どもの増加が落ち着かないようであれば、将来的に新しい学校や学校区の変更を考えていくことも検討しなければならないですが、数年で落ち着くのであれば地域活動との関係性を視野に入れた基本方針のとおり進めてまいりたいと考えております。

委員

- ・不登校対策と行きしぶり対策として良いと感じたのは、あすなるEスクールという施策です。安易に登校しなくてもよいということにならないようすることが必要と考えますが、その点についてのお考えを教えてください。

事務局

- ・あすなるEスクールはあくまでも社会的生活の一步を踏み出すためのきっかけと考えております。その次のステップとして、人と人との関わりなどについてメタバース内で自信をつけてもらって、仮想空間から現実空間へ戻ってきてもらえるきっかけとしていただきたいと思いますと考えております。

<閉会>